

- ・双方向の話にするため、時々聴衆に問いかける。
- ・最初の掴み、中盤の展開、最後の締めを計算する。
- ・聴衆は平坦なプレゼンが嫌い。驚きを求めている。
- ・ライブデモをするなら、失敗した時の対応も決めておく。
- ・百聞は一見にしかず。言葉より写真、写真より実物。
- ・要点は3つにまとめる。それ以上だと多すぎる。
- ・覚えてほしいことは何度も繰り返す。最低3回以上。

英語でのプレゼンのコツ

プレゼンはショーですから台本があります。でもあなたは台本を読みながら演技するわけに行きません。つまりプレゼンターは英語の台本を覚える必要があります。そのためには難しい単語は避け、分かりやすい英文を選ぶことがコツです。日本人に発音の難しい単語を使う場合は、何度も練習して滑らかに言えるようにします。十分練習すれば、自信をもって英語を話すことができます。

スライドに説明させてはいけません。ショーの主演はあなたです。スライドに文章があると、聴衆は文章を読む間あなたの話は上の空で聞いていません。話を聞いてもらうのが目的なので、スライドを使う場合はキーワード又は絵をひとつにします。プレゼンは、文章中心のプレス・リリースとは違います。英語のキーワードは発音しやすく覚えやすいものを選びます。

ショーなので発声練習も必要です。場面の転換時には声でも変化を付けます。だらだらと平たいプレゼンは昼寝にはよくてもショーとしては最悪です。英語はアクセントが命なので、すべての単語には正しいアクセントを付けて、文章の中での抑揚も間違えずに練習します。大事な単語は特に大きな声で発音します。演劇と同じく聴衆にどう聞こえるかが大切です。日本語は平坦なので、やり過ぎかと思う位大げさな抑揚を付けると英語としてはちょうど良くなります。

身振り手振りのいわゆるジェスチャーを付けましょう。同じ情報でもこうした身体言語を使うとより相手に分かりやすくなります。立ち位置、手の動き、視線、擬声語など体全体を利用します。子供のころ学芸会で役の練習をした事を思い出してください。あれがプレゼンに役立ちます。デモが予定通